

美味しい田舎のつくりかた

地域の味が人をつなぎ、小さな経済を耕す

金丸弘美・著

著者の金丸氏は全国約千の農山漁村を訪問し、地域活性化の特徴を体系化して



明確化と効果的な意思決定などで、経営成功の決定要因と言えるでしょう。

わが社は今年で四十三期を迎えました。「小さな大企業」の経営理念も、化学薬品事業と健康診断サービス事業が共に発展し、ビジョンを実現しつつあります。事業継承も順調に進展し、世代交代を終えた現在は、自由な会長業を楽しんでおります。これも同友会で学んだ「理念型経営」の成果であると感謝しています。

創業当時、「経営とは何か」で悩んだ答えは、同友会の「理念型経営」の実践にあったのだと経営者人生を総括しているこの頃です。

います。「農業女子」が注目されるなか、前作「幸福な田舎のつくりかた」に続き、六次産業化に注目した「美味しい田舎」が生まれる経緯を詳細に紹介しています。

「一、生きていく素材から、極上の味が生まれます」「二、使われ方を知ることから、商品開発は始まります」「三、つくり手も買い手も喜ぶ、売り場をつくります」「四、ありのままのもてなしが、訪れたくなる秘訣です」の四章で構成され、テーマに基づき十社の事例を掲載しています。

会員企業としては(有)池田牧場（滋賀）が登場。ジエラートショップと農家

レストランを営む(有)池田牧場は自家製の牛乳を使用した全三十六種類にも及ぶジエラートを販売。山間地にあるにもかかわらず、実際に店頭を訪れジエラートを購入する顧客が大多数です。ジエラートへ関心が向いたのは生産調整により自慢の牛乳を廃棄しつづけていたことがきっかけでした。お話の続きは本書にて。

本書は生産した作物にどのように付加価値をつけていくのかが物語を通して伝わります。六次産業化のヒントが詰まった本書は農業経営者だけでなく、広く気づきを得られるものと思います。

(T)

発行・学芸出版社。定価 千八百円＋税。

※紹介された書籍は一般書店にてお求めください。